

広報たかつき

知る 広がる 好きになる

TAKATSUKI

Days

令和5年

2

No.1419

特集

子どもと 建築の 良い関係。

連載

キラリスポーツ

「少林寺拳法」

たかつき歴史アラカルト

「芝生遺跡」

週末どこ行く？何食べる？

おでかけDAYS

「古曽部エリア」

CLOSE UP /

1. まちを守る消防団

2. 地域共生ステーション整備へ

3. 職場でのハラスメント

建築家が
考える

子どもと 親のための 建築デザイン。



多くの子どもが通う場所は、
どのようにデザインするのか？
高槻市在住の建築家・
堀部直子さんの案内で
注目の建築を訪れました。



堀部直子さん

高槻市出身で市内在住、JR摂津富田
駅前に事務所を構える建築家。「第7回
関西建築家新人賞」、「第9回キッズデ
ザイン賞」を受賞。昨年設計した住宅
ではフランスのデザイン賞「DNA Paris
Design Awards 2022」を受賞。

ホワイト ローズ イングリッシュ スクール
White Rose English School

子どもたちの
上り下りが見える階段。

城内町にある英語学校「White Rose English School」は堀部さんが設計。まず考えたのが、「子どもたちが見てワクワクする」建物にしたい、ということ。大きな半円の窓からは、外から見ても子どもたちが元気に階段を上り下りする姿を見ることができるようデザインしました。「半円は子どもたちが将来へ、世界へつながっていく可能性を表現しています」と堀部さん。



たっぷり光が差し込む教室。

2階に2室、3階に2室ある教室では、日々子どもたちが英語と親しんでいます。部屋の光は建物の中央にある大きな窓からとっています。大きな窓からは階段がよく見えるので、教室との間でコミュニケーションをとることができます。

教室が道路に面していると子どもたちの気が散りやすいので、少し奥まったところに教室があると、レッスンに集中しやすいですね。



送迎時の渋滞回避のドライブスルー。

多くの子どもが通うスクールでは、送迎時に車が混み合い道路が渋滞したり、子どもが長時間待たなければならないことも。それを解消するために、出入口を2カ所設け、敷地内をドライブスルーできるような設計にしました。子どもにも親にもありがたいデザインです。

学校の前には認定こども園もあり、朝や夕方はどうしても車が混み合います。ドライブスルーで車の流れもスムーズになりました。



顔のように見えてくる窓。

1階の事務室の窓は、堀部さんが「顔のように見えたら子どもたちも喜ぶだろうな」と4つの丸い窓を配置。白い建物に黄色やピンクの差し色が親しみやすさを醸し出しています。建物北側の窓も大きくとり、高槻城公園の緑や人が歩く姿を見ることができます。



建築家の視点から見えてくる 子どもたちが心地よく過ごせる場所。

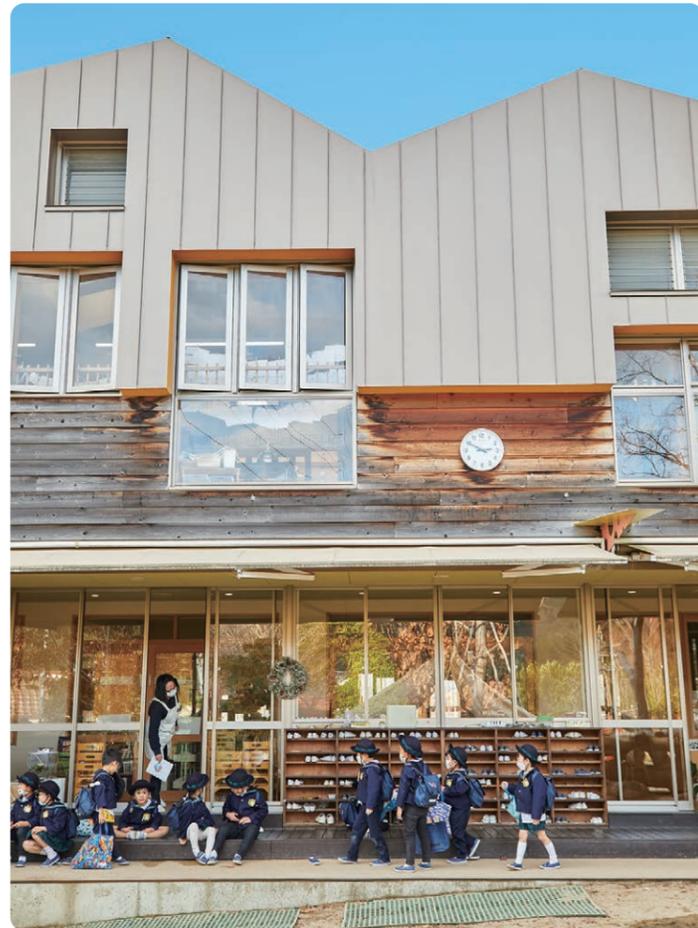


日吉幼稚園

それぞれ違う形の保育室が
想像力をかきたてます。

令和元年に大阪市景観建築賞を受賞した園舎は、建築家・竹原義二さんの設計。従来ある建物に建て増しをして4つの棟をつなげています。園舎と広い園庭の間にはテラスや縁側などの半屋外スペースをたくさん設け、子どもたちの活動の場としています。保育室は画一的ではなく部屋ごとにそれぞれ形が違い、窓の位置の高さもバラバラだったりユニークな設計は、子どもたちの自由な発想を生み出します。

あちこちに半屋外のスペースがあって、そこで子どもたちがいろいろ工夫して遊びを楽しんでいるのがいいですね。



コミュニケーションの場でもある廊下。

「路地裏のような建物にしましょう」。竹原さんの提案で、内部はまっすぐに続く廊下が少なく、先がどこにつながっているか想像させるようなデザインになっています。

廊下などには、人が集まるようなパブリックスペースも多く、「子どもたちが自分が好きなスペースを見つけて、たこ焼き屋などを開店している自主性に驚きました」と堀部さん。

さまざまな動きを生み出す体育館。

地下にある体育館は、子どもたちがさまざまな遊びができるようにと広さと天井の高さを確保。ロープやタイヤなどを使った約20種類の道具を用意し、「くぐる」「のぼる」「しがみ

つく」といった、ふだん家ではあまりできない動きのパリエーションを経験できます。子どもたちはここで、体の制御能力、コントロール性を身につけていきます。



高槻森林観光センター

山のことを学べる
森林レクリエーション。

高槻の檜田地域を活性化する目的でつくられた高槻森林観光センターは、緑と光を融合させる建築を多く手がける建築家・瀧光夫さんの設計。「これほど多くの木々や緑に囲まれた建築はなかなかないもの。小さいときから自然にふれることは子どもにとってもすごくいいこと」と堀部さん。中核となる森林バーベキューハウス（写真上・中）には、間近に木々が迫るテラス席もあります。



森林バーベキューハウスの柱には鏡が設置されて周囲の木々が映り込み、視覚的に自然の風景が繋がっているような感覚が面白いです。



薪ストーブが暖かいカフェは、日本のログハウスの先駆け。

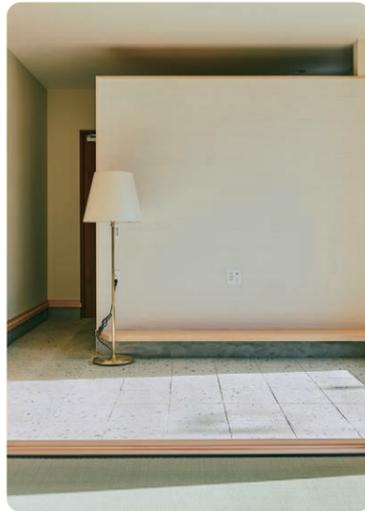
昭和53年にセンター内で最初に建築された総合管理棟（現在はお菓子と森のカフェ「forêt」写真下）は、当時は国内にほとんど存在しなかったログハウス。丸太を井桁に組んで建てられた建物は、瀧さんがシイタケのホダ木が積まれているのを見てインスピレーションを得たそうです。中では木の温かみを感じられ、「薪ストーブを見ると、子どもたちも楽しいんじゃないかな」と堀部さん。



高槻の建築家夫婦による 子どもが喜ぶ家づくり。



高槻市在住の夫婦建築ユニット「のびのび子ども住宅」が手がけた施工例から、子どものための家づくりのヒントを探します。



1 子どもの好きを 生かす空間。

工作好きな小学生の長男のために、汚しても気にならないよう、玄関と和室の間に広い土間を確保。運動好きな長女のために壁にクライミングウォールを設置するなど、子どもたちの好きが生きる空間を設置しました。1階の大人と子ども共用のクローゼットから階段下の勉強スペースへと、無理のない動線がつけられています。

2 手洗いの習慣がつく建築。

子どもたちが勉強もできる大きなテーブルが置かれたダイニング。玄関からそこに続く動線には、「おかえり手洗い」を設置。子どもが外から帰ったらすぐ手洗いする習慣を身につけさせます。「小さな成功を褒めてあげる」が大事。



たかつきぐらし vol.7 小下がりスペースで親子のびのび



3

床には
無垢の木を。

こちらの家では、リビングを2階に配置。天井が高くなることで開放感があり、子どもがどこにいても目が届くオープンな空間に。床は無垢の木を使い、子どもたちが自然のものに触れることができます。



くまだ
九万田眞理子さん・忠孝さん

子育て世代が暮らす家の設計・施工を手がける会社「のびのび子ども住宅」を設立した建築家夫婦。「大きな子ども部屋を望む方もいますが、親子で過ごす時間は案外短い。コンパクトにすることが多いですよ」と忠孝さん。

子どもが気持ちよく過ごすために

子どもの家時間を充実させるDIYのヒントを九万田さんに教えてもらいました。

無垢の木の床材で自然に触れる。

「家の中で自然に触れるのはいい」と忠孝さん。床には自然の木をそのまま切り出して加工をしていない無垢の木のフローリング材を貼るのがおすすめで、足の指でつかむ感覚を養い、ぬくもりも感じられ、子どもの感性を豊かにするそうです。



成長に合わせて有孔ボードを有効利用。

子どもの服やカバンを引っ掛けるのに、有孔(穴の開いた)ボードを使うのもおすすめ。棚柱などにボードを掛けて、成長に合わせてS字フックの高さを調整できます。「穴の大きさや数も種類があり簡単に買えます」と眞理子さん。



階段の踊り場に大人の本棚を。

「階段の踊り場や廊下に、大人の読む本や趣味のものを置くスペースをつくるといいですよ」と忠孝さん。親が読む本や漫画、聴く音楽などを置くことで、「こういうのが好きなんだな」と子どもに気づかせることも必要だろう。



Instagram高槻市公式アカウントで「たかつきDAYS」2月号特集のこぼれ話を配信中!